

○永倉委員長　こんばんは。どうもよろしくお願いたします。

第42回「文京区さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会」、今期第6期の最後ということになるようでありますけれども、ただいまから委員会を始めたいと思います。

最初に、委員の出欠状況、配付資料等について、事務局から御説明のほうをよろしくお願いたします。

○大川幼児保育課長　委員の出欠状況でございますが、東委員、樋野委員、塩見委員からは欠席という連絡をいただいております。長松委員につきましては、特に連絡がないので、おにくてくるのかと思っているところでございます。

配付資料でございます。

まずは、きょうの次第が1枚。

資料第13号「文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会委員名簿（案）」ということで、第7期のメンバーをお示ししているものでございます。

資料第14-1号「文京区立さしがや保育園アスベストばく露に伴う健康対策に関する協定書の一部を変更する協定書について」ということと、また、第14-2号として、その確認票の様式を案としてつけております。

資料第15号としまして、平成30年度さしがや保育園アスベストシンポジウムの「企画書（案）」というものをつけております。

おそろいでなければ、挙手を願えればと思います。

よろしいでしょうか。

○永倉委員長　では、次第1については事務局のほうからの御報告をお願いたします。

○大川幼児保育課長　こちらは資料なしの口頭で説明させていただきます。

心理相談・健康リスク相談につきましては、申込者数がゼロでありましたので、実施をしていなかったというところの現状でございます。

以上でございます。

○永倉委員長　ありがとうございます。

このところ、両方の相談はゼロというか少なくなっているのですが、やはりずっと続けていくというか窓口をいつも開いておくということが大事だと思いますので、これは特に今のところ緊急にはないということでしょうけれども、御相談したいと保護者の方が思ったときに、そういう窓口があいているということが重要なのではないかと思います。

何か感想とか御意見とかがありましたら、先生方よろしくお願いたします。

よろしいですか。

では、引き続き、心理相談・健康リスク相談については続けていただきたいということにいたしたいと思います。

次に、次第2についてでございますけれども、事務局さんのほうから御報告をお願いたします。

○大川幼児保育課長 資料第13号に基づきまして、第7期（平成30～31年度）の新しい委員の方の紹介をさせていただければと思います。

新しい委員としましては、まず、村山武彦先生、久永直見先生、名取雄司先生、龍野勝彦先生、春原由紀先生ということで、推薦書のほうをいただいている状況でございます。また、残りの先生方につきましては再任という形で、引き続きお願いをしたいと思っております。

○永倉委員長 今、御紹介をいただいたわけでありますけれども、私が推薦させていただいた村山先生につきましては、この前の委員会に出しました、最初の報告書についての意見書などを書いていただいたりした経緯がありまして、非常にアスベスト問題については詳しいということで推薦させていただきました。

今も、藤沢市のある保育園で飛散事故があって、そちらのほうの委員会の委員長を村山先生はやっておられるということで、私がその副委員長という形で引き続きやっておりますので、そういう意味でもこういった事例についてはお詳しいということで推薦させていただきました。

ほかに御推薦の補足について、御紹介いただければと思います。

大田先生は、龍野先生を御紹介いただいていることで。

○大田委員 医師会からの推薦だと思いますけれども、龍野先生は循環器の先生で、大変温厚なとてもすばらしい先生です。

○永倉委員長 よろしくお願いいたします。

水流先生のほうは。

○水流委員 春原由紀先生ですが、子供から大人まで、かなり多くの方へのカウンセリングをきちんとおできになる先生なので、これから親御さんの御相談から御本人へと対象が変わっていくところで結構微妙なこともあるかなと思うのですが、御相談がふえるといいなと思っています。移行期の、親御さんがどのように子供さんにアスベスト被害のことを話すとかあるいはその伝え方の困難さとか、葛藤があれば、アスベストだけではなくても、家族の問題としての御相談もお受けしますという広報ができればいいのかなと思っております。

○永倉委員長 ありがとうございます。

大体、子供たちも成人して、やはり自分たちで疑問とか不安とかを、これから持つことになってくるとは思いますので、そういった相談の窓口がぜひ必要だろうなと思います。

あと、久永先生、名取先生については、私はたまたま知っているということで、名取先生については、私が所属しています中皮腫・じん肺・アスベストセンターの所長ということで、前々期の委員をされておったということで、さしがや保育園の事案については当初から非常に詳しいということです。

久永先生につきましても、私はたまたま久永先生とも、大阪府のある高等学校の、やはりアスベストの飛散事故の委員会で御一緒させていただいている先生です。久永先生は、

一般環境のアスベスト被害の追跡とか研究とかをされているということもありまして、非常にお詳しいということで、適任ではないかなと私も思うところであります。

何かほかに補足とかがございましたら、お話しただけたらと思います。

よろしいでしょうか。

そうしましたら、次期、適任の先生方がまたそろえられたということで、よろしく引き継ぎができるのではないかと思う次第です。

次に、次第3についてであります。資料の説明をよろしくお願いいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、資料第14-1号で「文京区立さしがや保育園アスベストばく露に伴う健康対策に関する協定書の一部を変更する協定書について」ということで「1 変更協定について」の2段落目、元園児たちの多くが成人を迎えるということで、協定書の名義を、法定代理人から元園児本人の単独名義に変更したいという要望が、これまで挙がっておりました。そこで、法定代理人である保護者から元園児の単独名義に変更するための協定書の締結についてという形で、これから御案内をしていきたいと思っております。

こちらが御案内の文の案分になっております。「2 変更協定書について」というところで、名義をかえるわけですがけれども、協定の内容そのものに変更はなく、既に締結している協定の効力に影響はありませんという形で、変更協定を締結しない場合もこれまで同様という形で行うというところなんです。

協定書の部分につきましては、当時の文京区長、また、法定代理人というところで、今、協定書が結ばれておりますが、その協定書の名義を変更する協定書という形での協定を結ぶ形になっております。現協定書と変更協定書のセットで一つのものになるというところを想定しております。

裏面の「3 変更協定の結び方について」ですけれども、14-2号「変更協定締結意思確認票」というところについて、こちらを御案内と一緒にお送りしたいと思っております。そこで変更協定を希望される方については、こちらで、御返送いただいた後、手続を進めるという状態にしたいと思っております。

最初は、こちらとしては、4月27日を期限として、まずは第一報という形でいただければと思っております。その確認票で希望というところがありましたら、後ほどまとめて実際に協定の締結の手続に進めてまいりたいと思っております。ただ、こちらにつきましては、これ一回限りで終わりというわけではありませんので、今後、変更協定を結びたいという状況の方がいらっしゃいましたら、その都度対応するという形で考えているものでございます。

こちらの変更協定についての説明は以上でございます。

○永倉委員長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

現協定書につきましては、乙が児童（元園児）と法定代理人という形で、甲との協定が結ばれているという形になっているということですね。それが、プラス、変更の協定書と

ということになりますと、文京区長対元園児本人という形に、これは両方通用するという形になるという意味ですね。

○大川幼児保育課長 はい。

○永倉委員長 これは、今まで大体議論されてきたことの内容だと思いましたが、保護者の方、いかがでしょうか。

○森委員 いや、別に。

○長松委員 森さんはいいと言っています。

いいですね。

○森委員 はい。いいです。

○長松委員 御案内のところに、前の協定書が要るかとかを御案内いただきますと、混乱がないかと思えます。たしか要らないのですよね。

○永倉委員長 そういうことですね。

それと、あと、この内容について、要するに周知をどうするかみたいなことというのは、また別途あるのかなと思えますが、ニュースは毎回出していただいているので、それでかなりの周知は届くのかなと思えますが、わかりにくくもないかな。これでしたら十分わかりますか。

○長松委員 これを1枚出せということですね。

○永倉委員長 確認票を出すということですね。

○長松委員 これを送ればいいだけですね。だから、そんなに難しいことはないです。

○永倉委員長 4月27日を一応の目安として、これを出してくださいという趣旨ですね。

○長松委員 そうすると、どうなるのですか。何かサインするものが来るのですか。

○大川幼児保育課長 新しい名義変更の協定書を。

○長松委員 2通で、1通ずつ保管するということですね。

○大川幼児保育課長 はい。そうです。

○長松委員 わかりました。

私はいいいと思います。

○永倉委員長 よろしいでしょうか。

○森委員 これは変更するための協定書。

○大川幼児保育課長 名義を変更するための協定書という形です。

○森委員 するのですね。

○大川幼児保育課長 はい。

○長松委員 ですから、親だったものが、結ぶ相手が本人になるという協定書をもらえるということですね。

○大川幼児保育課長 そうです。

○長松委員 いいと思います。

○永倉委員長 ちょっと複雑ですけども、今まで要望されていたものが形になったとい

うことで理解していいと思います。

○長松委員 ありがとうございます。

○永倉委員長 そうしましたら、それにつきましては了承があったということでいいと思います。

何か御意見がほかにあれば。

よろしいですか。

そうしましたら、次の次第4「シンポジウムの開催について」、これも何回か議論をしてきたところでありますが、これについても事務局のほうから御説明のほうをよろしくお願いいたします。

○大川幼児保育課長 それでは、資料第15号に基づき説明いたします。

今年度検討していただいた「シンポジウムの開催について」ということですのでけれども、新年度が始まってすぐに開催するという形で迫ってまいりましたので、実施内容について、本日御決定いただければと思っております。

まず「1 名称」でございますが「平成30年度さしがや保育園アスベストシンポジウム」という形にしたいと思います。こちらについて、まず名称を御決定いただければと思っております。

「2 実施主体」については「文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会・文京区」という形にしてございます。

「3 実施目的」については、こちらに書かれているとおり、当事者である元園児の子供たちの多くが成人することで、当時の出来事を伝え、今後は子供たちが主体となっていくことを意識するきっかけとして、また、一般区民へのアスベストに対する意識の啓発として、さしがや保育園アスベストシンポジウムを開催するものでございます。

「4 開催日時」は、平成30年6月24日（日）13時30分からという形で予定しております。

「5 場所」は、このシビックセンターの26階のスカイホールを用意してございます。

「6 対象等」は、健康対策対象者及び一般区民ということで、スカイホールのキャパとしまして60～100名程度という状況となっております。

入場は無料、どなたでも参加可能という状況です。

「7 開催内容（案）」につきましては、こちらに書いてあるとおり、開会から、まず、内山巖雄先生の基調講演をしていただいた後、パネルディスカッションに進みたいと思っております。

ファシリテーターとしまして、内美登志様（NHK鹿児島放送局 アナウンサー）をお願いしております。

パネリストとしましてはお三方、Fathering Japanの代表であります安藤哲也氏、また、先ほどの委員の村山武彦氏、愛知教育大学の榊原洋子先生という御三人にパネリストとして御参加していただく予定になっております。

その後、質疑応答の後、閉会という流れになっております。

「8 当日スケジュール」とレイアウト等を裏面のほうで記載しているというところがございます。

説明は以上になります。

○永倉委員長 ありがとうございます。

委員会としてもいろいろ要望を出させていただいたものが反映されていると理解しております。

この名称ですけれども、最初に「案」がとれたということになると思うのですが「平成30年度さしがや保育園アスベストシンポジウム」という名称でよろしいでしょうか。これを確認したいと思いますが、御意見等ございますでしょうか。

これはこれでよろしいですか。

まるでそのものなのですが、余り変化球を出してもしょうがないなという気がするので、これはこれでよろしいのかなと思います。

○保坂委員 シンポジウムは初めてなのですか。

○永倉委員長 シンポジウムという形は初めてだと思います。

○保坂委員 「平成30年度」だと毎年やっているみたいですね。

○長松委員 そうですね。

○永倉委員長 そうしたら「平成30年度」を外してしまいませんか。「さしがや保育園アスベストシンポジウム」。それでもすっきりするかな。

○長松委員 「もうすぐ20年」でも変ですね。一応、始めてからもうすぐ20周年記念だったのですけれども。

○永倉委員長 そうなのです。20周年であれば「20周年」が頭につけばよかったのかもしれないのですが。

○長松委員 そうでもないのです。だけれども、20周年ではない。

○永倉委員長 「さしがや保育園アスベストシンポジウム」ということで「平成30年度」を抜くという御意見が出ていますが、どうでしょうか。

○森委員 「年度」というのがね。

○永倉委員長 どうでしょうか。

そのほうが何かすっきりしているような感じもするし、看板の見栄えもいいかなという感じもしないでもないのです。

「平成30年度」をどこかにつける必要がありますか。特にありませんか。あるのであれば、どこか後ろのほうにつけるとかも考えたほうがいいかもしれませんが。

○長松委員 入れるのなら「2018」とかを最後に。でも、なくてもいいような気もするのです。どうでしょうか。

○永倉委員長 「さしがや保育園アスベストシンポジウム2018」。

○保坂委員 そちらのほうが格好いいかもしれない。

- 永倉委員長 そちらのほうが格好いいですね。  
若い人に来てもらうというのが趣旨ですから、格好いいほうにしましょうか。  
そうしましたら、では「さしがや保育園アスベストシンポジウム2018」ということでよろしいでしょうか。
- 大川幼児保育課長 「文京区立」は入れてもいいですか。  
そのほうが文京区というところはわかるかなと。
- 永倉委員長 「文京区立さしがや保育園アスベストシンポジウム2018」。  
では、それで。
- 大川幼児保育課長 「2018」は入れますか。
- 永倉委員長 「2018」はどうしますか。入れますか。
- 森委員 入れたほうがいいのではないですか。
- 永倉委員長 記録としては。
- 大川幼児保育課長 では、後ろに「2018」。
- 永倉委員長 そうですね。  
これは、多分、会場に横断幕もつくるわけですね。
- 大川幼児保育課長 はい。
- 永倉委員長 そうしましたら、最終的に「文京区立さしがや保育園アスベストシンポジウム2018」。
- 長松委員 「文京区」ではだめですか。「文京区さしがや保育園アスベストシンポジウム2018」。長い。どうでしょうか。
- 永倉委員長 ちょっと長いけれども「文京区」、「立」は要らない。
- 水流委員 主催は「区立」です。「文京区立」。
- 永倉委員長 そうですね。主催は委員会と文京区だから「区立」。「立」を入れるか入れないか。
- 森委員 要らないと思うのです。
- 長松委員 要らないと思うのです。
- 永倉委員長 保護者さんの意見を少し。  
よろしいですか。  
では「文京区さしがや保育園アスベストシンポジウム2018」ということでよろしく願いしたいと思います。では、名称はそういうことにしてください。  
それと実施主体についてはいいですね。  
実施目的ですが、この「啓蒙」が変わるわけですね。「啓発」になるわけですね。  
あとは開催日時。前日準備というのは、何か特にやるということではなくて、あけてあるという趣旨ですか。
- 大川幼児保育課長 こちらは事務局で、配置とか案内といったところの準備をするという形です。

○永倉委員長 会場がシビックセンター。これは確認済みということによろしいですね。

「7 開催内容（案）」についてであります。内山先生のほうには御依頼をお願いしたところですが。

パネルディスカッションのほうのファシリテーターの内美登志さんというのは、NHKのアナウンサーなのですけれども、さしがや保育園のころから、実は保護者に対するインタビューなどもずっと引き受けてくださっていて、当初から非常に詳しい人で、私が鹿児島放送局に電話したら、ファシリテーターをやれるのは私しかいませんという非常に積極的なお話だったので、ぜひお願いしますということをお願いした次第です。アナウンサーではあるのですけれどもラジオのディレクターなどをやって、3年ぐらい前までは仙台放送局にいて、テレビのニュースアナウンサーなどもやっておられたので、そういう意味ではベテランというかプロフェッショナルな方です。

パネリストの安藤哲也さんについては、保護者の一人でありまして、今はFathering JapanというNPO法人の代表をされていますが、さしがや保育園の当時の保護者の一人であります。安藤さんにもお願いして、快諾をいただいているところであります。

村山先生については、先ほど御紹介させていただいたのですけれども、さしがや保育園の報告書についての意見書なども書いていただいているという経緯もありますので、お願いした次第です。

榊原洋子先生については、親子ミーティングなどにも参加していただいて、子供向けのアスベストを理解していただくための教材、グッズなどを開発されて、いろいろ紹介している活動を今続けていらっしゃる先生ということで、それぞれについてパネラーとしての出席をお願いいたしました。

一応、了承を得られているのですが、村山先生はほかの用事と重なっているのですが、なるべく都合をつけますという御返事をいただいているのですけれども、その辺がもう一度確認が必要かなと思いますが、メンバーとしてはそのようなことで考えておるところであります。

○長松委員 済みません。打診してしまっただけで申しわけないですが、榊原先生は確かにアスベストに対する啓蒙教材をつくっていらっしゃるのですけれども、この事故があって、そしてその後の子供たちが自分たちで歩いていくのに、ちょっと私はそぐわない気がするのです。お話も、教材のことに行ってしまうので、来た人がちょっと違うと。むしろここには医学的な方がいらっしゃらなくては。

安藤さんは保護者ですね。村山先生は当時から私のことを。村山先生と榊原さんは環境問題で重なってしまっているのです。だから、どちらかというとも医学的な見地から名取さんか毛利先生に入ってお話をさせていただく。名取さんではないな、毛利先生みたいに。むしろ保坂先生だと思うのです。やはり、病気ではないのですね。曝露とか。私もそうなのですから、親が分離できていないわけですから。自分たちのせいで曝露されてしまったから。だから、前におっしゃってくださったではないですか、子供は病気を受け入れるというこ

とだとか、あとは毛利先生が子供たちに、前に親子ミーティングに来たときに、ちょっと違う立場でお父さんとお母さんがこういうのを抱えて今まで頑張ってきたということもわかっている、何かそういう感じのお話のほうがいいかなという気がするのです。断りにくいのはわかるのですけれども。

○永倉委員長 言われてみると、そのような並びになっているなど、はたと気づきました。

これはきょうであれば変更可能なのでしょうか。

○大川幼児保育課長 これから御本人に。

○永倉委員長 これから打診をするという状態ですね。

○森委員 医学的な確認というか、うちの家でこの間3人で話をしたのですけれども、子供はおよそ自分は大丈夫であろうとか、100%なるということはないと思うみたいな話をしていて、うちのかみさんは10年前に冊子をつくったではないですか、あのあたりでもうある程度のことは確認できているということなので、子供たちに、絶対安全だよではなくて、曝露してというようなところの確認です。およそ安全だということ、安全という言葉方を積極的に言うのもうちの中で変な感じだったのですけれども、そういう自分が確認できる医学的な現在の状況みたいなものを。

○長松委員 説明する場があると。

○森委員 そう。絶対あったほうが。

○長松委員 パネルなのかどうかわからないけれども、それがここに必要かもねという話ですね。そうすると、それはもしかしたら内山さんの後とか前かもしれないですね。それは誰が話をできるのだろう。

○永倉委員長 確かにそういうこともある。

○森委員 本当に確認みたいな感じで、専門的にわかるみたいなことじゃなくて、ぱっとゲートを越えるとか、そういうような言葉が子供たちにあるといいかなと。だから、その場で言葉だけでいいのですけれどもね。

○長松委員 村山先生はできないし、安藤先生と榊原先生というのは、まともらなくなってしまうですね。

○永倉委員長 保育園の子供たちと、あと、一般区民も入ってくるから、病気に関する話にしても、そこのところをバランスよくお話していただいたほうがいいですね。

○森委員 いい意味で、自分たちの特定のことでいい、社会的なこともいろいろ含まれるというようなことがわかっている、全て安全かということに対する認識が、うちの子供を見ているもまだ揺らいでいるというのではなくて、さわれるものがないとか越えるものがないとか。およそ大丈夫なのだろうということは思っているらしいのですけれども、第三者などに私もうまくできないし、うちのかみさんも、10年前に私はやり切ったからそんなことは関係ないし、心配もしていないみたいだけれども、それは安全だという言い方ではなくて、私はもうこれでいいみたいなことを。

○長松委員 やれることはやったと。

○森委員 そのような言い方で、少し脱線してしまって申しわけないのだけれども、ほかの保護者の方にも言ったのですが、およそ来ないのです。ちょっと言ったのですけれども、わかっているからみたいな感じで。その辺のことが、もうちょっとわかりやすく6月24日にさしがやの人たちがもっと来られるような。

○永倉委員長 微妙なところのお話ですね。

○森委員 もう本当、何人来るかという話になったら、うちのかみさんとよく言うのは、絶望的だけれども一桁かなみたいな話があっさり出てきてしまうので、私などは嫌だ。でも、そんなのはあなたの考えることではないからみたいなところまで、この間1カ月ぐらい前なのですけれどもたまたまそういう話が出て、うちの3人で珍しく話をしたのですけれども、残念で身動きがとれなくて、私も何かやりたいのだけれども、空回りするのもだめだし、声高に語ると煙たがられるというような、少なくともゼロ歳児の中では話をするのですけれども、そこまで踏み込めないし、6月24日は私は結構大事だとは思っているのですが、そんなことあんたが声高に語ることはないということを、子供にもかみさんにもたしなまれているような状況で、自分の身の置き場が全然今ないみたいな。

○永倉委員長 そういうことは非常に大事だと思うのですけれども、それをどうやって、せっかくの機会なのだから来てもらうか、もしくは来なくてもいいということもあるのだとは思いますが、ただ、せっかくやるのですから、やはりそこは声高にということではないのでしょうか。

○森委員 何かそういうブロークンな会にしたいのです。

それで、話の流れがもっと脱線しますが、ぜひ私のサクスを呼んでください。そういう準備もあるので、ソロではなくてメンバーも呼びたい。思っているのは、アコースティックギタリストなのですが、その彼も、実はライブハウスのオーナーをやっていて、品川区に住んでいるのですが、高校生の子供が1人と小学生の子供が2人いて、健康問題とかそういうことに関しても関心はあるというようなことなので、そういう機会があれば友達も呼びたいみたいなことも言っているのです、そういうところからも広げていってもいいかなと思っています。

○永倉委員長 この会場は音出しは大丈夫なのですか。

○大川幼児保育課長 楽器はだめです。

○永倉委員長 では、その榊原先生のところは、医学的な説明をしていただくようなことに検討すると。

○長松委員 さりりでいいですね。その後、聞いたかったら、後で自由時間とか質疑応答のときにつかまえて、そんなたくさんは要らない。

○永倉委員長 この企画書案のほうには出ていなくて、私のほうとしては、私のイメージの一つなのですが、ブースを幾つかつくれたらということで、前にも申し上げたような気もするのだけれども、子供たちがどう考えているかという自分たちでこう思うというようなブースとか、あと、映像の永田先生が、今まで撮られていた映像が紹介できるブースと

か、あと、その中に榑原先生の教材のブースも入れてもいいのかなという気がするのです。そうすると榑原先生にはそこで、みんながフリーになったときに、御説明をそれぞれしていただくような形ができるかなというようなイメージがあるのですが、どうでしょうか。

○長松委員 そのほうが榑原先生はいいと思います。

○永倉委員長 だから、そういうような、例えば、子供たちに伝える教材というのは、パネリストとしての紹介ではなくても、ブースでこういうものがありますよと。例えば、今、榑原先生がよくやるのは、スマホを上に乗せると顕微鏡になって、カメラのところちよほどレンズがつくようになっていて、アスベスト繊維を閉じ込めてあるものですけれども、それをスマホで見て、それを写真で撮れるというような教材をつくったりして、結構、今の子供たちはスマホで何かを見るというのが非常に得意なので、興味を持って、これがそうですかというようなことをやっているワークショップ、私は何度かおつき合いしているのですけれども、そういうようなものは、若い人たちにかなり身近になってもらうという意味ではいいのかなと思うのです。だから、そういうイメージを持っていたのですが、確かにパネリストとしては同じ関係が重なってもという気がします。

どうですか。毛利先生、パネリストでお話しいただけますか。日程は。

○毛利委員 日程はもうとってあるので大丈夫ですけれども、リスクの話みたいなことになってくるわけですね。

○長松委員 どうなのですかね。そこまでやらなくていいから立ち位置なのです。名取先生に言うと、これぐらいの一定割合がこうだけれどもと、結局よくわからない話になってしまうから、そこそここれ以上リスクを上げないまでも、要はこれを抱えてどう生きていくかということですね。だけれどもエミコさんは、もうやることはやったから何をやってもいいという、それもちょっと違和感がある。

○永倉委員長 難しく語ろうとしたら非常に難しいと思うのです。

○長松委員 そうなのです。でも、それはみんな考えていて、きっとそういうことですね。

○森委員 大丈夫なのだろうと思っているのだけれども、関係ないとも言えないみたいなことを言っていたような感じ。

○永倉委員長 本人がね。

○森委員 関係なくはないと思うのだけれども、大丈夫だろうとは思いますが、それと関係ないとの差別化ができないみたいなことを。

○永倉委員長 そうすると、パネルディスカッションというよりは、会場に来てくれた当事者とのやりとりみたいな話になるのかな。例えば、毛利先生にお願いするとして、毛利先生にいろいろ引き出してもらいたい話になるのですか。それも変だね。

○長松委員 それも変なので、そういうのを思っていると思って、それぞれの世帯で多少あるのだけれども、でも、みんな、子供たちはそのとき赤ちゃんだったから、今どう受けとめていかかわからない戸惑いみたいなものがあると思う。それに対し、どう対峙するかということをお話していただいたらどうですか。すごくなってしまいうというほどではないので

す。しかし一方で、長期の潜伏期間があって、全く忘れてもいいかというところ、そんなこともないし、やはり混沌とした、この大変だった20年間はあって今があって、それをどうするのかというのを消化させてあげるようなお話なのかなど。

○永倉委員長 このシンポジウムの一番の根幹はそこなのだと思うのです。教科書的にいろいろなことを言っても余り意味がなくて、実際どうなのというところで、それが、例えばほかのところの同じような経験を追っている子供たちにも、今後あらわれてくるわけだし、そこに触れないと、本当に形だけのシンポジウムになってしまうような気がする。だから、そこができたらいと思うのですけれども、毛利先生、お願いできますか。

例えば、森さんと毛利先生と少し。それも変か。事前に、どういうことが参加した人が聞きたいのかとか、どういうことをお話しいただきたいのかみたいなことを調整していただいて、そこが本当に一番根幹だという気がするのです。

○森委員 科学的なこととか医学的なことは聞きたいのですけれども、それよりも心のソフトみたいなところがふわっと越えるので、それを事前に打ち合わせというのは何かわからない。

○永倉委員長 親子でどう伝えて、共有するのかみたいな、普通のことでもなかなか親子が共有したり伝えるのが難しいですから、その大きな課題をどうやって共有していくのかといったところですか。

○長松委員 多分、それはすぐにお話ししても答えが出るということではないのですね。ただ、みんながそれは抱えていることだと思います。うちだってそうだし、安藤君のところは安藤君だし、来ない人たちもみんなそれぞれがあると思う。でも、それを見ないで、全く来ないでそのまま生きて行く人もいいのだけれども、ここへ来る人は人生できっと何らかかかわっているのです。その人たちが自分で答えを見つけていく。そのための材料は、そこに来ている人がいて、ここのメンバーなのですから、ここではきっと解決できないけれども、そういう用意があるというメッセージをすれば。

○永倉委員長 そこは大事ですね。そこを何とかしたい。

○長松委員 そのための材料をここで示していくのではないのでしょうか。だから、内さんも見てくれたし、安藤さんはそのときテンパっていたし、村山さんも医学ではないところでやって、ずっと20年つき合ってきてくれた。

毛利先生が、ある意味これから見ていってくださる方なのです。保坂先生は文京区の先生で、やはりそれをつなげてこない。そこに、実は文京区の方たちがかかわってくれたという、それぐらい20年もこのチームがやってきたということを伝えないと、もしかしたら将来何か起こったときに、今はもうほとんどの子はならないと思うけれども、なったときに、耐えられなくなってしまったときに、この20年頑張ってきたことが生きてくるのです。

○永倉委員長 確かにそうですね。では、そこのところを少し。

○長松委員 誰が言えるのだろう。

○森委員 わからない。

あと、もうちょっと言うと、わかった、それじゃあ俺はこの後委員をやるよということは、彼らの中ではおよそないそうです。

○長松委員 それはいい。

それはお子さんのチョイスである。

○森委員 そうです。チョイス。

それで、あと、私のかわりに委員をやってくる人がいないかなというのを、お父さん同士で話したのですけれども、およそいないのです。私の言い方が悪いのかなと思って。みんな断る。やってくれるところがおよそない。

いろいろ話をしたのですけれども、ちょっと最近、周りの人にそういうリアクションを起こして、かなり落ち込んでいるのです。

○長松委員 頑張ってくださったのに。

○森委員 そんな感じです。だから2年の委員をやるなどみたいな、それを、先ほど乗り越えたいと言ったけれども、だから私自身の問題でもあるのです。そういうのを越えて、精神的に、義務感ではなくて、安全だとか社会問題とか、別に震災のことも。

○永倉委員長 それはいろんなところで多分同じような傾向というのは出ている気がしますね。

○森委員 話が脱線して済みません。

○永倉委員長 そういうことだと思うのです。

○長松委員 でも、そういうことですね。誰もそういう人がいないから。

○森委員 およそ、さしがやのやつというか親とはお友達なのですけれども来ないかな。それを自分が頑張って、来いと言ってあげるのも違うかなと思って。だから、安藤さんなどはどういう話をされるのか、逆におもしろいとは思う。

○永倉委員長 引き受けてくれたわけだけでも、どういう思いで引き受けてくださっているのか、ちょっとまだわかりません。

○森委員 だから、すごいさしがやの問題でもあるのですけれども、社会的なところの全然裏返しもあるのですが、まず、さしがやの親と子供の流れを変えたいというのでもないですけれども、何とかしたいみたいな。なんで私はこんなに偉そうになっているのだろうかみたいな。

○長松委員 頑張ってくれているじゃないですか。

○森委員 この1～2カ月はそんなところですよ。

○永倉委員長 わかりました。

どうでしょうか。

○毛利委員 では、私がやりましょうか。

○永倉委員長 よろしいですか。ありがとうございます。

○長松委員 ありがとうございます。

○永倉委員長 では、このところは毛利先生に、そういったことを踏まえたお話をさせていただくということで、榊原先生については、先ほど申し上げたブースのほうでグッズを展示できればと思うのですけれども、このブースを3つぐらいつくるということは可能でしょうか。

○大川幼児保育課長 スペース的には大丈夫だと思います。

○永倉委員長 わかりました。

机を2つぐらい並べていただいて、その上でというようなイメージでいいと思うのですが、そうしましたらそのブースの件と、パネリストを榊原先生のところを毛利先生に引き受けていただくということにしたいと思います。

ほかに何か御意見とか、ここはこうしたらいかがでしょうかとかはありますか。

○保坂委員 今のお話だと、やはり元保護者が当時の葛藤などを、安藤さんは話してくださるのかもしれないけれども、やはり二十歳になった当事者がパネリストに2～3人、一人で座らせるのは多分勇気が要るから、数人で座ってくれたら。一言、今の思いとか親がこうしてきてくれたものを見て自分はどう思っているかとか、言ってもらっただけでいいと思うのです。

○長松委員 お子さんは余り言うタイプではないね。

○森委員 ないです。

○長松委員 うちが学校の行事と重なってしまって、連れてこられたら。

○保坂委員 無理やり連れてくるものではないと思うのです。

○永倉委員長 例えば、毛利先生の発言のときにそういうことを御提案いただいて、会場に来てくださっている子供たちに上がっていただくということは可能かもしれないですね。

○森委員 指名して、この人というのではなくて、来た人と自然にしゃべられるような。

○永倉委員長 言いたいことでいいから言ってみてくれと。

○長松委員 だから、質疑応答でもいいけれども、やはり来た子供たちが自分で言い、みんなにメッセージを発する機会を。先生、おっしゃるとおりです。

○永倉委員長 それは大事だと思います。

○長松委員 来そうなのは何人しかいない。今まで来てくれた人たちがあと1人か2人いるので、うちの娘から声をかけます。

○永倉委員長 怒っている子もいるかもしれないし。

○長松委員 怒ったっていいのですよ。それは当然です。こんなことに巻き込まれてしまったのだから、それでいいのです。

○永倉委員長 そういうことについては、何をやっているのだという話もしてもらったほうがいいし。

○長松委員 いけていないとかでいいのです。

○永倉委員長 そういうようなことで毛利先生にお願いして、イメージしていただければと思います。そのところは御変更いただきたいと思うのです。

あと、当日のスケジュールはこんなものですか。細かく見きれていないところがあるのですが、休憩が間に入るので、このときにブースを見てもらうとか。あと、質疑応答。でも、みんな、あとは着席になってしまうのだね。そういうことでいいか。

「9 その他」ということで、当日の様子や講演内容をデータ化し、記録にまとめると。

開催の案内は、平成30年5月ごろに周知を予定しておりますということと、保護者や元園児だけではなく、歴代の専門委員にも周知を予定しています。

区報にも掲載予定ということで準備をしていただいております。

○長松委員 このほかにも何度も言ったのですけれども、当時かかわった人たちでまだ生きていらっしゃる方は、メッセージをいただいて、冊子にしたいのです。

○永倉委員長 それは、このシンポジウムまでに何かメッセージをいただくという趣旨。

○長松委員 そうすると祝電。いいですね。

○森委員 お祝いですか。

○長松委員 出しておけるけれども、それでもいいし、当時のことをA4で1枚ではちょっと多いかもしれないけれど、そして、お写真をいただければ、また『パパ・ママ 子供とアスベスト』が『じじ・ばば 大人とアスベスト』に20年たったのができるので、それを残したほうがいいのかなど。現在の保護者や先生方にもいただく。それから、当時の生き証人の人たちも20年前を振り返ってもらう。

○永倉委員長 区の職員の方とか、保育課の課長さんという意味ですか。可能であればあれですけれども。どうしますか。

○長松委員 あと、外の方ですね。名取さんはこのとき会長になっているけれども、最初に見つけてくれた西田さんとか永倉さんとか、ひまわりの平野さんとか、かかわってくれたメンバーがいっぱいいいたと思うのです。その方たちにメッセージをもらったほうがいいのではないかと思います。

○永倉委員長 シンポジウムに向けてのメッセージを。

○長松委員 20年振り返ってのメッセージだと思います。それを短くてもいいからまとめて、写真と一緒にして20年を一遍に残す。保護者と子供たちも、協力してくれる人はもらって残す。そこまですれば、多分、次の20年後などは当時の人は誰もいません。なので、やっておいたほうがよくないでしょうか。

○永倉委員長 それは、連絡する人をリスト化しないといけない。

○長松委員 前にして、出したのですけれども、そんなにいないと思うのです。文京区のほうで前の議事録を御確認いただいて、当時、今までかかわってきた人たちの、3回ぐらい前のときに出てきたので、そこにもらう。

○永倉委員長 わかりました。

では、そういうことで、メッセージをいただきたいという通知を出していただけますでしょうか。それは記録としてはありますか。

○大川幼児保育課長 ただ、これから2カ月で、できるかできないかというところがある

ので。

○永倉委員長 それを集約するという作業ができるかどうかというところですか。

○長松委員 集約しなくていいのではないですか。間に合わなかったら、この後、来年度に編集すればいいのです。そうするとちょうど20年になるから、来年度中に冊子にまとめる。どうですか。

○永倉委員長 例えば、メールの打ち出したものでも何でも、集まったものを壁に張ってしまうといった感じでもいいのかもしれないです。

○長松委員 いいですけども、間に合わないかもしれないですね。なので、間に合わなかったら、名取さんかわからないけれども、来年度のこの委員会で編集作業をすればいいのです。そうすればちょうど20周年史になる。そうではないと、事務局が大変だと思う。

○永倉委員長 このシンポジウムの記録とともに、それを載せるという感じになるわけですね。

○長松委員 そうです。

○永倉委員長 そうしたら、そのリストについて、期日とかをまとめるということについては、今後、委員会の中で御検討いただくとして、そういった御案内だけ関係者に出してもらうということでしょうか。

○大川幼児保育課長 案内は、ニュースを送るときとかでも。

ただ、戻ってくるかどうかというところまでではなく、こちらから御案内はするという形で。

○長松委員 もちろんです。それはもういいです。

○永倉委員長 わかりました。では、その方向でよろしく願いいたします。

○大川幼児保育課長 (3)のテーマのところの③が、榊原先生が抜けるとなると、このテーマを変えなければいけないかなと。

○永倉委員長 「③アスベスト教材の開発」を変えるわけですね。

○大川幼児保育課長 はい。そこをもうちょっと御相談をお願いしたいと思います。

○永倉委員長 どうでしょうか。毛利先生のほうからこの点について御連絡をいただくか、この場で決まればいいですが。

○毛利委員 要はアスベストのリスクと、健康リスクとどう向き合うかというようなことなのですね。

○永倉委員長 そうです。アスベストに限らず健康リスクとどう向き合うか。でも、この件に限定したほうがいいのか。

○長松委員 済みません。先生にプレゼン。別に私たちは、ここで子供たちをアスベストの曝露を守るためには、多分、村山さんだと思うのですけれども、話してもらうとまた去年みたいにつまらなくなってしまうから、村山先生にここで話をしてもらわなくていいのです。そうではなくて、この20年抱えてきたところで、村山さんの人間としての温かい言葉が欲しいのです。だから、多分、安藤さんは、そのときどんなに大変だったか、どんな

思いで頑張ったかというのを語ってほしいのです。20年を振り返ってほしいだけなのです。ただ、毛利先生は、やはりそうは言いながらも20年振り返るだけではだめで、20年を振り返っている皆さんにとって温かい言葉をもらうのです。

わかりにくいだけでも、わかってくれましたか。

○毛利委員 はい。

○長松委員 あと、言語化はお任せで。

○保坂委員 ①のテーマは、アスベストの曝露はもうしてしまっているから、そもそも違うと思うのです。アスベストの曝露をした子供たちを守るためにとかだと思えます。この子供たちをどう支えてきて、これからもどう支えていくのかというのがテーマなのではないですか。

○長松委員 おっしゃるとおり、村山さんがどういう立場で。そうではないと村山さんのことを誰も知らないので、どうやって陰で支えてくださってきて、やはりその大人が頑張ったことが、将来、この人たちの生きていく支えになっていくのかなと。

○永倉委員長 そうすると「①子どもたちをアスベストばく露から守るためには」ではなくて。

○保坂委員 これをちょっとずらすだけですね。曝露した子供たちを。

○長松委員 このおじさんたち三人が、むしろ保育園で起こったアスベスト曝露に対して、大人がどう頑張ったかという代表者なのです。それを言語化するとどうなるのかと思うのです。

○永倉委員長 意外と難しいね。

○長松委員 その観点が違って、保護者がいて、環境の専門家がいて、御自分だってパパ世代のわけです。私たちの気持ちをわかってやってくくださった人。毛利先生はそれを引き継いで、医師という立場で見守ってくださった人ということなのだと思うのです。

○森委員 言い方を変えると、小さくてゼロ歳児で、何が起こったのかわかっていないのですけれども、現時点で言語化して言ってもらえれば、自分は何があったということの認識というか確認というか、その辺を何かぼんと、よしわかったみたいなことを子供たちにしてほしいというか、当たり前ですけれども、およそわかってないわけですから。そういうようなところを自分の子供にうまく伝えられればいいかなと思うのです。

○永倉委員長 まず、多分、①というのは安藤さんのテーマだと思うのです。

○長松委員 これがそうなんだ。

○永倉委員長 これは違うのかな。

○長松委員 安藤さんがこんなことを話せませんよ。

○永倉委員長 順番で言うとそうになっている気がする。

○長松委員 安藤さんはパパとして、子どもをどう守るために頑張ったかしか言えないですね。みんなも守ってくれたのだけれども。

○森委員 そうです。

○長松委員 パパとしてNGOまで立ち上げて、頑張ってくれたことではないですか。父親の立場としてではないですか。

○森委員 多分、そうだと。

○長松委員 多分、あの人はそれ以上ではないよね。

○永倉委員長 そうすると、全くテーマを変えていくか。

○長松委員 パネルディスカッションのテーマを1つに、20年を振り返って、子供たちを守るために行ってきた取り組みみたいなことなのではないですか。

そうすると、余り村山さんにも工学的なことを出されても、みんなぼかんとしてしまうし。

○永倉委員長 余り学術的な話をしても困るのだな。

○長松委員 村山さんは何をやるかな。やはり、これはゆゆしき問題なのだということは言うと思います。

○毛利委員 平凡ですが、これまでとこれからということで、特にこれまでにに関してを、当事者、親の立場からというのと、それを支えてきた専門家の立場からと。私のほうは、むしろこれからに焦点を当てて、成人した当事者である子供たちに向けてのエール、メッセージです。そんな感じなのですか。

○長松委員 戸惑うと思うけれども、そういうことです。

○永倉委員長 そんな感じですね。だから、安藤さんについては、これまでがどうであったか。

○森委員 割と語ってくれると思います。

○永倉委員長 村山先生については、そのことについて専門家の立場からどうなのだと。毛利先生のほうからは、これからはどうするというのを考える必要があるかと。そのように捉えると余りぐちゃぐちゃとした話にしないで、テーマとしては、これまでと、専門家からの立場と、これからということですね。それだけでは説明が足りないでしょうから。

○長松委員 大丈夫です。毛利先生が言語化してくれます。

○毛利委員 いや、そんな簡単にはいかないです。

○永倉委員長 安藤さんなどは、パパの立場からということでいいと思います。

○森委員 そうだと思います。Fathering Japanの代表だから。

○永倉委員長 パパの立場からこれまでどうだったかということですね。パパを入れてしまっていていいと思うのです。

○森委員 それが余り個人的な話にもならないと思う。

○永倉委員長 パパの立場を結構客観化している人だから。

2番目は村山先生の話だから。

○長松委員 テーマを1個にしてしまっただけではどうですか。アスベスト災害なのか飛散なのかわからないのですけれども、さしがや保育園アスベスト災害のために行ってきたこととこれからとか、わからないですけれども。3人1つの、違う立場から話してもらおうと。3

つに分けるのは無理です。

○永倉委員長 パネルディスカッションのテーマをぼんと決めて、その中で1番がこれまでで、2番が専門家の立場、3番がこれからというような。

○長松委員 これまでの取り組みと、これからとか。

○永倉委員長 パパの立場からは入れない。

○長松委員 入れない。そうしたら村山さんの立場は何なのですか。

○永倉委員長 そうだね。

そうしたら、パネルディスカッションの大きなテーマとして、さしがや保育園の。

○長松委員 もう一回は言えない。何て言ったっけ。

○永倉委員長 ざっくり「さしがや保育園アスベスト問題について」でいいか。

○長松委員 忘れてしまった。

○水流委員 20年というのを入れたらいいと思います。

○永倉委員長 ここに入れますか。

○長松委員 20年の取り組みとこれから。

○永倉委員長 いいですね。

○長松委員 委員長、ちゃんと書いてください。

○永倉委員長 書けなくなってしまうですね。

「さしがや保育園アスベスト問題 20年の課題」、問題、課題がちょっと変。

○長松委員 それかアスベスト対策。違うな。

○永倉委員長 「さしがや保育園アスベスト問題 暴露から20年」にしますか。

○水流委員 「アスベスト暴露から20年、私たちの取り組み」。

○長松委員 そうですね。「暴露から20年、これまでの取り組みとこれから」。

○水流委員 文京区対策委員会と入れてもいいけれどもね。

○長松委員 「さしがや保育園アスベスト問題 20年・・・これまでの取り組み」とか。

○永倉委員長 今の御意見ですけれども「さしがや保育園アスベスト暴露から20年の取り組み」に何か加えるかどうか。長いとあれですものね。これがパネルディスカッションの大きなテーマというように位置づけると。

もう一度申し上げます。パネルディスカッションの大きなテーマとして「さしがや保育園アスベスト暴露から20年の取り組み」とする。それぞれのパネリストのお話としては、これまでの。

○長松委員 20年を振り返っての思いと。

○永倉委員長 振り返ってですね。

○長松委員 振り返ってぐらいでいいのではないですか。安藤さんは安藤さんなりに、もちろん村山さんも、皆さんやはりこれからのエールを送ってくださる人たちだと思うのです。

○永倉委員長 ①としては、20年を振り返って。②としては専門家の立場から。③、毛利

先生のところは。

○長松委員 永倉さん、難しくしている。大きいテーマだけでいいことにしませんか。「さがや保育園アスベスト暴露20年の取り組み」。それだけ。

○永倉委員長 ①、②、③はなし。

○長松委員 それぞれ自分の立場から簡潔に述べよというのでどうでしょうか。

○保坂先生 ファシリテーターの内先生が頼みですね。こういう気持ちを伝えておいて、進行してもらえようとするといいいのではないですかね。

○永倉委員長 わかりました。内さんはそのところは、多分、十分承知おきいただけると思うので、それは私のほうからでも伝えるようにいたします。

そうしましたら、今の御意見をまとめますと、パネルディスカッションについては「さがや保育園アスベスト暴露から20年の取り組み」というテーマで、それぞれのパネリストについてのテーマは設けないということで、ファシリテーターの内さんに誘導していただくという形にするということにしたいと思います。

そうすると、毛利先生も特にテーマを決めなくてもよろしいですね。

○毛利委員 はい。

○永倉委員長 毛利先生のところ、可能であれば子供たちとの対話形式みたいなことを検討いただくということにしたいと思います。

以上でよろしいですか。

いかがでしょうか。ほかに御意見等はございますか。

事務局さんとしても大丈夫ですか。可能な範囲でしょうか。何か御意見等、ここはまずいという話があったら。

○大川幼児保育課長 あえて意見を言わせていただくのであれば、この期のこの委員の方々に、このシンポジウムの中身を考えていただいたというところもありますので、来月以降も、委員長初め、いろいろとお知恵をおかりさせていただければと思います。

あと、やはり、こちらとしては当然一般区民の方にも広く周知はするわけですがけれども、いかに集客をしていくかといったところについては、大きなテーマの一つかなとも思っておりますので、引き続き御協力をお願いしたいなというところではございますので、よろしく願いいたします。

○永倉委員長 わかりました。

その辺についても御協力できることについては、していこうと私のほうも思っておりますので、またよろしく願いいたします。

そういうことで、あと、次第としましては「5 その他」ですが、何かございますでしょうか。これだけは言っておきたいとか、この点について何か御提案とかありましたら。

よろしいでしょうか。

そうしましたら、今期はこれで終わるということで、委員も退任される委員がおられますので、一言ずつ、大田先生から御挨拶いただければと思います。

○大田委員 何もお役にも立ちませんで、かえって皆さんの真摯なディスカッションを聞かせていただいて大変勉強させていただいて、ありがとうございました。これからも力強く続けて、ただ、今まで余りにも、私はこういう会があるのも知らなかったし、それが普通の市民だと思うのですけれども、この人たちがこういうシンポジウムや何かをきっかけに、もっと知るようになったらいいなと思います。

ただ、このアスベストシンポジウムは誰が来るか、誰に話しかけるのかということを経験するのがすごく大変だなと。誰に向かって言うのか、私みたいなちょっと医学知識のある素人なのかあるいは関係者なのかあるいは子供を持つ親なのか、同じ年齢を持つ親なのか、もしかしたら病んでいるのかもしれない子供なのかというのが難しいなと、このシンポジウムに関しては終始思っていました。余分なことでごめんなさい。

○長松委員 とんでもないです。本当にそうです。

○大田委員 そんな印象を持っていました。

以上です。ありがとうございました。

○永倉委員長 ありがとうございました。御苦労さまでした。

水流先生。

○水流委員 4年間、どうもありがとうございました。

私も少しは知ってはいたけれども、ここへ参加させていただいて、この20年間、関係者の皆さんや区の皆さんが、どれだけのエネルギーを注いでいらしたのかということを押見して、本当に希有なことだなと思っています。

これからもまた神奈川に住んでおりますので、いろいろ勉強をさせていただく機会もあるかと思っています。これからも関心を持っていたいと思いますので、皆さんどうぞ御一緒に頑張れるといいなという気持ちでいたいと思います。

○永倉委員長 私も今期、委員長という大役を仰せつかりまして、全くそれらしいことはできなかったと反省しておるところなのですけれども、親子ミーティングが開催できたということと、シンポジウムについての下地が何とかつくれたかなと思います。私ができたことはそのくらいなのですけれども、ただ、さしがや保育園のことを考えますと、1999年なのですけれども、最初に保育園に行ったとき、みんなお母さんたち、お父さんたちが、どうなっているのだということで、びりびりした感じを今でも覚えておって、私は部外者なのに毎日保育園に通ったようなことがありまして、保育園でいろいろなことを毎日体験したなど。実はこれ、長松さんが自費でつくった、さしがや保育園のアスベスト災害というすごい資料、当時の原資料を集めたものなのです。これをずっと見ていましていろいろ思い出しまして、写真とか当時の新聞記事だのもあって、こんなことがあったのだなと思いでしておりました。

この委員会の報告書ができたのが2003年で、その翌年の2004年に早稲田大学で世界アスベスト東京会議という大きな会議を開催しました。私たちは裏方でやったのですけれども、そこでアスベスト問題はこれから日本でも大きく取り上げられる可能性もあるなど漠然と

思っていたら、翌年の2005年がクボタショックなのです。尼崎のクボタの工場の周辺で、一般の住民の方からアスベスト被害が出たというのが、その世界会議の翌年で、それが6月だったのですけれども、その6月の報道の後、私は今いるのはアスベストセンターなのですけれども、毎日毎日報道の取材が大挙して押し寄せて、2年間ぐらいへとへとになるような時代を過ごしました。

その翌年の2006年に、アスベストの全面禁止が日本で初めて獲得できたのですけれども、その最初のきっかけになったのがさしがや保育園なのです。その委員会の報告書をクボタショックの後、国の環境省と厚労省の役人はみんな読んだと聞いています。これは要するに、そういった一般環境でアスベスト被害がどのように起こり得るかという資料を誰も今まで報告していなかった非常に貴重な報告書だということで、国の役人は全部熟読したと聞いていますので、このさしがや保育園の報告書の問題もそうですけれども、それ以前に起こったことが、非常に希有な、今までなかったようなことであったということをひしひしと思い出しながら、この資料集を読んでおったのです。

子供たちのその後のフォローアップにいろいろかかわれたということは、私にとっても非常に重要な人生の出来事だったなと思っています。今、これで終わりみたいな話をしていますけれども、どうせまた2年たてば呼ばれるのかなと思っているのですけれども、いずれにしても今期につきましては、各先生の御協力を本当に賜りまして、非常に有意義な時間を過ごせたと思っています。本当にありがとうございました。また、今後とも頑張ってくださいと思います。陰ながら応援をしていきますので、よろしくお願いたします。（拍手）

ありがとうございます。

きょうはそんなところで終了にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

そうしましたら、きょうはこれで閉会ということにいたします。どうもありがとうございました。